

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200627		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム横戸		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町1123-4		
自己評価作成日	平成21年12月6日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成21年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりの現状にあった支援ができるように介護計画を立て、サービスを提供している。 ・入居者また他の入居者の生命また身体を保護する為、緊急やむおえない場合を除き、身体拘束、その他入居者の行動を制限しない介護に努めている。 ・医療・福祉・市町村との連携を図り、利用者がより多くの支援を受けられるよう支援する。 ・入居者とその家族がよりよい関係を継続できるように支援に努める。 ・職員が常に向上心を持って研修に参加し、話し合いをすることによって情報の共有化を図り、切磋琢磨して介護力アップを目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは人工透析が必要な方も入居できる施設を目指して医療法人が設立したグループホームであり、同じ敷地内のクリニックとの連携により安心して日常の医療や看護が受けられる。千葉市郊外に立地し大型商業施設にも隣接しているが、周囲には自然林が残る恵まれた環境にある。リビングや居室から直接ウッドデッキや広い芝生の庭へとつながり、気候の良い時には随時ガーデンテーブルで食事を摂るなど開放的な運営がなされている。当ホームでは「入居者一人ひとりが自信を持って感情豊かに暮らせるよう支援すること」を目指しており、職員全員が常に問題意識を共有し、話し合いを繰り返しながら介護に当たっている。職員の定着も良くアンケートでの利用者家族の満足度も非常に高い。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自信を持って感情豊かに暮らせるよう」、「体力の低下を補いつつもてる力を存分に発揮するよう」、「入居者同士が支えあい励ましあって生活していくよう」、「地域の一住民として社会参加が出来るよう」という、4項目の理念を共有し、利用者を生活の主役に置き、自立支援を念頭に、一人ひとりに今必要な援助をしている。	当ホームでは4項目の「理念」を掲げるとともに、職員の連携により理念を実践することを誇りとする旨の3項目の「信念」を定めている。「理念」や「信念」はホームに掲示するとともに、毎月の職員会議などで話し合いを重ねて日々の介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には未だ加入できずにいるが、地元の商店に見守りのお願いをし、買い物に行くなど交流を図っている。また、地域の中学校の体験学習を受け入れ、その後の行事にも参加してもらっている。	中学校から体験学習生を受け入れ、中学生と共に一日を過ごしたり、ボランティアにも積極的に協力要請する等地域との連携を大切に、利用者にも大変喜ばれている。地域事情から、自治会への加入はすぐにはむずかしい状況にあるが努力中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外の看板に介護相談の受入を掲示している。相談にいらした方の介護・介護保険・利用できる社会資源などの疑問について、相談業務にあたっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は年間スケジュールも設定し年4回を目指したが、インフルエンザの流行により1回中止となり、3回の開催であった。開催頻度を上げることが未だ課題である。会議では今までなかなか聞かれなかったご家族の本音を伺う事が出来るようになり、参加者同士の意見交換が活発になった。頂いた意見はサービスの向上に活かしている。	今年は運営推進会議の運営方法を見直し回数も増やして3回開催した。地域包括、民生委員に加え介護相談員の参加も得て、又利用者家族の参加も多かった。ホーム食堂で食事を一緒に取り、全体会議と小部屋での家族同士の交流会の二部制とし、本音の交流が図れた。	運営推進会議の新しい取り組みが横戸方式として、関係者が本音で交流出来る場として継続、発展することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は千葉市介護相談員を受け入れ、日常の支援を見てアドバイスを頂いている。行事等にもお誘いし交流を深めている。また、千葉市グループホーム連絡会の世話人をし、グループホームの抱えている問題解決に向け、市町村との橋渡しをしている。	ホーム長が千葉市グループホーム連絡会の世話人として、地域のグループホーム全体の向上に向けての活動をしており、千葉市高齢施設課にはグループホームの抱えている問題などについて橋渡しをしたり、相談し合う関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に毎回申し込み、参加出来た職員が月に1度行われる全体会議の時に研修報告をし、知識の共有を図っている。場所によっては鍵をかけているが、入居者自身が開けられるようにはなっており、身体拘束をしないケアを目指している。	現在身体拘束が必要な利用者はいないが、市主催の研修会に積極的に参加し、受講内容を職員全員で共有し、身体拘束をしない介護についての理解を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じ法人内の事業所との事例検討会で、虐待防止のための必須要件について学んだ。また、ご家族の介護放棄が疑われた時には、包括支援センターに早めに連絡を取り防止に努めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の受診の手続きや家族の居ない方の成年後見制度について市役所と連絡を密に取った。また身体障害者の補助器具の説明会に参加したり、オムツ給付の申請など積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族が納得いくまで説明を行い理解を得ている。また、改定時には速やかに説明会を開催し了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で常に入居者の要望を感じるようにをしている。また、ご家族については面会時や運営推進会議にて意見、要望を伺い運営に反映させている。	家族の来訪時には職員誰もが気軽に話し合える雰囲気作りを心がけている。又、全家族に、毎月担当職員が利用者の生活状況についての細やかな便りを出し、季刊の「茶ばしら新聞」を送付する等により、訪問の少ない家族も心を開き連携が取り合える関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや毎月の全体会議で意見交換を行っている。また、月1回ユニットごとの分科会を設け話し合いを行っている。	ホームの「信念」として、「職員間でよく話し合い、共有し、同じ方向性を持つこと」を大切にしており、朝・夕のミーティングの他に、毎月全体会議や分科会を定例化して、全職員参加で風通し良く運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回自己評価を記入してもらうと共に、面接し1人1人の感じている事の聞き取りを行っている。毎年目標を掲げてもらうことにより向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、実践研修、身体拘束廃止研修などに4人のスタッフが参加した。また、グループホーム連絡会が行うセンター方式研修には6人のスタッフが仕事が終わってから参加し日々の介護に反映させている。法人内では年2回外部より講師を招き講習会を行うと共に事例検討会を行い向上心を高めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に入会し、世話人も勤め、同業者と密に交流している。グループホーム連絡会が開催した新人研修会、ターミナルケア研修、またケアマネ研修会やメモリーウォークに入居者も一緒に参加しネットワーク作りに努めると共に向上心を高める努力をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接はご本人がリラックスされている生活の場に伺い、安心して入居出来るように要望等伺っている。ご家族、ケアマネ、ソーシャルワーカーなど情報収集に努めている。特にご家族にご本人の生活史の記入をお願いしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの介護をねぎらい、ご家族に共感し、悩み不安を話しやすいような雰囲気作りを心がけ、信頼関係づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15・16で得た情報収集等を通し、「その時」必要としている支援を見極め対応している。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な生活場面の中で、ご本人の出来ること・出来ないことを見極め、出来ることを一緒に行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の力が無ければよい介護に結びつかないことをお話し、現在のご本人の状態を知っていただく為にも、受診をお願いしている。また、ご本人とご家族の絆を大切にさせていただくためにも、外出や行事などのへお誘いをしている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みのある物を持って来て頂いている。また、馴染みの商店に買い物に行ったり、食事に出かけ、関係が途切れないように支援している。	入居前に利用していたスーパーやラーメン屋などに職員と一緒に出かけたり、以前からの理容店に行くなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。またホームの周りの竹林を「裏山に似てる」と馴染みの景色を連想する方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが一人ひとりの性格を把握し、入居者同士の架け橋となり、良い関係が築いていけるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してしまわれた方のご家族に連絡を取り、状態を伺ったり、ご家族からの相談も受け、退居後も私達の出来る支援を提供している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが支援の中で感じ取ったことや、会話の中で得た情報を共有し、どんな場合でもご本人の希望に添った支援が出来るように努めている。	常に本人が話しやすい雰囲気作りを心掛けており、日常の会話や仕草などから思いや希望を汲み取り、職員間で情報を共有し支援している。例えば食事制限のある方には制約の中でどのようにしたら満足感を持ってもらえるかなどを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を伺い、記入して頂いた生活史を基に、生活歴や暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情や心身の状態をありのままに書いた個人ケース記録 伝達事項 バイタルチェック表 排泄チェック表 水分チェック表 スタッフ同士の情報交換ノートなどにより、一日の過ごし方も把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回行っている分科会において、入居者それぞれの方の課題とケアについて話し合いの場を持っている。その他にも、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	家族の面会時での十分な話し合いとケース記録や伝達事項などをもとにケア会議を行い、介護計画を作成している。状態に変化が見られる場合には都度見直した介護計画を作成している。家族アンケートでも「介護計画の説明・話し合い」は全員が話し合っていると答えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	25・26にもある様に、様々な個別記録を用い、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないように、常に研修にも参加し、全体会の時に職員間で共有し、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で無料で借りられる大型バスを利用し、ご家族と共に遠足に出かけ、楽しむことができています。また、市民会館で行われた日本舞踊の発表会にも参加しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医のある方は、それまで通りの受診を続けて頂いている。その際には、前回受診後の経過について資料を作成し、ご家族にご様子についてお話している。また、その他の方については、症状に合わせ専門医に受診をお願いし、精神科などより詳細な説明が必要な場合は、職員が同行している。	ホームのかかりつけ医は月1回の往診があり、法人本部の看護師の訪問が週2回ある。入居前からのかかりつけ医通院には家族が対応し、精神科などへの通院には職員が同行している。透析の方には隣のクリニックへの送り迎えをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週2回の健康チェックを行っている。日常生活の中で気がかりな事などは、看護師に相談をし、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には、ご家族と共に主治医にお目にかかり、病状説明を受けている。ご家族・ご本人共に安心してホームに戻れるように、病院関係者との情報交換や相談を密にしている。また、退院後にも、必要な時にはご本人の状態を連絡し、助言をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針について説明し、話し合いの場を持っている。また、実際に重度化したときには、何度も方針について話し合いをしている。	20年1月に「看取りに関する指針」を作成し入居者・家族に説明しているが該当者は今のところいない。終末期に対する備えを充実させる為に、医療機関との一層の連携強化を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル・救急車要請マニュアルを作っている。それに加え、全体会においてシュミレーションの機会を作っている。また、法人内の勉強会において、AEDの使い方応急救護の訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練の他にも、他の施設での火災報道後には、すぐに訓練を行い、スタッフの安全に対する意識を再度確認した。日中の災害については隣接するクリニックに協力体制をお願いしている。夜間については、今後近所の方に支援体制の要請をしたいと考えている。	消防署指導の通報訓練の他、火災を想定した年2回の自主訓練を行った。耳の遠い方にはプレートで避難表示をする 車いすが足りないなどの気付きがあり、車いすは即刻購入した。夜間を想定した避難訓練は近所の方の協力支援をお願いして行いたいと検討している。	夜間想定訓練は、利用者を誘導しながらの災害時の避難方法を決めること及び体得することが課題と思われる。近所の方の協力を依頼しての訓練の早急な実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーン・大きさ・方言など、一人ひとりにあった声かけをするように心がけている。また、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、場面場面にあった声かけにも配慮している。	一人ひとりを人生の先輩として接しており、言葉遣いや対応などに気を付けている。排泄や入浴の介助の際には羞恥心に配慮してタオルやカーテンを利用したり、耳元で聞いたり、ゼスチャーで示すなどユーモアを交えたやり取りがみられる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように、スタッフは聴く姿勢・受け止める姿勢を持ち、また、導き出す支援が出来るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程はあるものの、その日毎に一人ひとりのペースを大切にし、希望に添った過ごし方ができるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室や床屋を利用し、ご本人の希望に添ってパーマや髪染めも行っている。また、外出や行事に合わせた洋服選びを一緒に行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ず暖かい食事を提供できるように、時間配分に気をつけ、個々の食事の形態にも配慮している。必要な方には自助具を取り入れ、ご自分の力で食べられるように工夫している。準備や食事、片付けを職員と共にすることにより、楽しい時間となっている。	利用者は盛り付けや配膳、お絞り配り、手指の消毒係りなど其々出来ることを職員と一緒にやっている。状態に合わせた食形態の提供や自助具の利用などにより、個々の食事の自立を支援している。陽気のよい時期には庭のベンチで食事を取ることも多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量の記載、水分量チェックを行い、一人ひとりの身体に合わせた量を確保できるよう、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせた口腔ケアを実施している。状況に合わせ、訪問歯科医に連絡を取り、口腔内清掃をして頂いている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に、排泄チェック表の使用やその方の行動パターン・排泄パターンを観察し、誘導・声かけにより、トイレでの排泄が出来るよう支援をしている。	排泄確認表や生活リズムを把握して誘導や声掛けして、トイレでの排泄を支援して日中はオムツをしないようにしている。寝たきりでも座位が保てる方であればトイレでの排泄を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	初めから下剤に頼るのではなく、食物繊維の多い果物・牛乳・ヤクルト・オリゴ糖など排泄を促す食品を提供している。且つ、運動も取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間の中でその方のレベルに合わせ、ご本人の希望も取り入れ入浴していただいている。柚子湯・菖蒲湯など季節に合わせ、また、多種類の入浴剤も用意し楽しんでいただくようにしている。	入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴も可能である。初夏には菖蒲湯、冬には庭で穫れた柚子を使った柚子湯にするなど、季節感を取り入れて楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干したり、常にきれいなリネンで気持ちよく寝られるように支援している。また、照明はその方にあった照度に設定している。慣れ親しんだ家具等を持って来ていただき、休息のときでもご自分の部屋だという安心感が持て頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作り、その方の薬の情報を分かりやすく確認できるようにしている。新しい薬が処方された時には、事前に医師に目的や副作用について尋ねるようにしている。誤薬の無いように、配薬箱を工夫し、服薬の際には、スタッフ同士で氏名・日にち・薬の個数を確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月1回は行事を企画し楽しんで頂いている。他、季節の食べ物を提供したり、天気の良い日には散歩に出かけ、気分転換の場を作っている。また、役割については、その方の生活歴から導き出した好きな事をして頂くように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩などスタッフから声かけし、外出できるように支援している。年に1度は、市のバスを借り、ご家族やボランティアの協力を得て、普段行けないような場所に出かけている。	陽気の良い時期には毎日散歩を励行しているが、冬場は外気浴を兼ねてホームの広い庭の散策が多い。法人のバスで近隣に出かけたり、年1回は市の無料バスを借り、家族に参加を呼びかけボランティアの協力のもと遠出をしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、その方が今持っていられる力を見極め、その力に応じ、ご自分でいただき、買い物の際にはご自分で支払いをして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人と電話をしたり、手紙のやり取りが継続できるように、スタッフ側からも促すなど、支援をしている。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた遮光に気を配り、冬にはブラズマクラスターや加湿器を取り入れ、空気の清浄や湿度調整に努めている。また、季節や行事にあわせた置物・花などを取り入れ、庭には時期に合わせた収穫の出来る作物を植え、生活感、季節感を取り入れている。	廊下など共有空間には花や置物、利用者の作品などが飾られている。暑い日差しはカーテンで遮光や温度調節をしたり、冬場はブラズマクラスターや加湿器を設置して適切な温湿度にしている。壁一面に行事や外出した時の写真が掲示された相談室には、利用者が思い思いに訪れて見比べ楽しんでいる。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には食堂以外にも皆が気軽に憩えるスペースを作っている。(廊下にベンチ) また、天気の良い日にはウッドデッキや庭のベンチで利用者同士が楽しんで話せるスペースを作っている。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みの家具を持って来て頂いたり、その方の好きな物を置くなどし、必要なものはご家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう配慮している。	使い慣れた筆筒や机、椅子、テレビなどを配置して、今までの生活が継続できるように支援している。各居室の入口に下がる好みの暖簾は自室の目印も兼ねている。ラジオを好まれる方もあり、居室で楽しんでいる。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や暖簾でご自分の居室やトイレ・お風呂場が分かりやすいように工夫している。一人でお茶を入れられる方には、操作の分かりやすい手動ボットを用意した。また、エンドキャップの無かった手すりを全て付け替え、安全な環境作りを行った。		